

ななえ大川保育所 職員 自己評価 集計結果

掲示用

NPO法人道南育児支援ネットありす

I	評価項目	評価統計
1-①	園の教育理念や教育方針を理解し、共感している	1.8
1-②	園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる	2.1
2-①	幼稚園教育要領・保育所保育指針を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育者との関わりなど具大的な事例を思い浮かべることができる	2.2
3-①	園の教育課程は、保育所保育指針をふまえ、園の教育理念、教育方針に従い編成している。	2
3-②	1年間の子どもの成長を振り返り、教育課程を評価している	1.6
3-③	園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	2.1
4-①	指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している。	1.6
4-②	行事は幼児の生活上の意義を十分に検討した上で、指導計画に組み入れている。	1.5
5-①	指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている。	1.6
5-②	楽しい雰囲気の中で、安心して遊びこめるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている。	1.5
5-③	幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている。	1.3
5-④	幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている。	1.8
5-⑤	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。	1.3
6-①	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている。	1.8
6-②	お互いに保育を見せあい、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育に繋げている	2.2

1. よくできている
2. まあまあできている
3. あまりできていない
4. まったくできていない

Ⅱ	評価項目	評価統計
1-①	朝の登園時は特に指針を大切にしていして幼児の体調が悪くないかを確認している	1.3
1-②	体調が悪そうな時や万一事故が起きた場合には適切な処置を行いすぐに家庭や関係機関へ連絡している。	1.1
2-①	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配置している。	1.5
2-②	一人の幼児をじっくりと見ながら見えないところで活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる。	1.6
2-③	個々の幼児の発達の様や課題について見通しをもって理解できる。	1.9
3-1-①	幼児ひとりひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている。	1.5
3-1-②	幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている。	1.4
3-1-③	幼児の話をよく聞くようにしている。	1.4
3-1-④	ひとりひとりとみんなの関係を常に考え、クラス集団をまとめている。	1.9
3-2-①	幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している	2
3-2-②	幼児をほめたり、励ましたり、めあてを持たせるような言葉掛けをしている	1.6
3-2-③	禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている。	1.9
3-3-①	幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮して関わっている。	1.7
3-3-②	支援を必要とする子が入園したとき、個別的対応やクラスの子どもとともに育ちあえる保育を積極的に進めるように考えている。	2
4-①	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉掛けや対応をしている。また、情報を共有している。	1.5
4-②	指導上の配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている。	1.5
4-③	他クラスや異年齢児の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れている。	1.7

Ⅲ	評価項目	評価統計
1-1-①	保育に携わる者として、専門知識や技能を身に着けている	1.9
1-1-②	保護者に対して、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	1.9
1-1-③	保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている	1.7
1-1-④	保育者の人間性が子どもたちに影響を与えることを自覚している	1.3
1-2-①	幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている	1.2
1-2-②	朝と帰りの挨拶は明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表している	1.2
1-2-③	園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	1.1
1-2-④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け、安全性にも気を付けている	1.3
1-3-①	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	1.7
1-3-②	締め切りのある仕事や提出物の締め切り日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている	1.6
2-①	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる	1.8
2-②	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している	1.4
2-③	当番や役割による仕事を理解し確実にやっている	1.6
2-④	上司の指示、命令には責任を持って実行している	1.3
3-①	幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている。	2
3-②	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている。	1.9

IV	評価項目	評価統計
1-①	ひとりひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	2.3
1-②	クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を写真やイラストなどを活用して分かりやすく伝える工夫をしている。	1.6
1-③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝えている	1.5
1-④	保育参観や保護者面談を定期的に行い、子どもについて、保育や家庭でのあり方について共通理解を得るように努めている	1.7
1-⑤	定期的にアンケート等にて保護者の要望を聞き、子どもにとってよりよい、環境づくりに努めている	2.1
1-⑥	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	1.7
1-⑦	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている	1.4
2-①	保護者からさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談している	1.4
2-②	必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる	2
3-①	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライベートについて他に漏らしていない	1.2
3-②	秘密情報(保護者・園児に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術、保育計画等の情報)については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	1.2
3-③	秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している	1.2
3-④	秘密情報の帰属は園または法人にあることを認識し、書類、データは持ち帰らないようし、どうしても必要な場合は持ち出し届け出許可書にて園長の許可を取っている	1.5
3-⑤	秘密情報の書類、電子データのコピーは施設長の承認を受けたもののみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している	1.1
3-⑥	秘密情報については新たに知りえたことについては直ちに園長に報告している	1.1
4-①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	1.7
4-②	親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	1.5
4-③	電話では、簡潔に要領よく対話することを心掛けている	1.8
4-④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	1.4
4-⑤	長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	1.5

VII	評価項目	評価統計
1-①	朝の登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、乳幼児の健康状態を確かめている。	1.3
1-②	体調が悪そうなときは静かに寝かせたり検温するなど、適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	1.2
1-③	保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性けいれん、脱臼癖などの既往歴について把握している	1.3
1-④	体重・身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している	1.3
1-⑤	家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てる	1.5
1-⑥	睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態(呼吸・顔色・嘔吐・汗)およびSIDS(乳幼児突然死症候群)のチェックを記録している	1.1
1-⑦	ひとりひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせてオムツ交換したり、トイレに促している	1.4
2-①	乳幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている	1.5
2-②	ひとりひとりの乳幼児の発達課題について見通しをもって保育している	1.6
3-1-①	落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語り掛けたりして、乳幼児が人との関わり楽しさや心地よさを味わえるようにしている	1.5
3-1-②	泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている	1.6
3-2-①	乳幼児の心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている	1.8
3-2-②	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを汲み取り、安心感と自己肯定感がもてるような言葉掛けをしている	1.6
3-2-③	禁止後を不必要に用いないようにしている	1.7
3-3-①	乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、ひとりひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている	1.6
4-①	保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉掛けや対応をしている	1.6
4-②	指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い共通理解をもって対応するようにしている	1.5
4-③	他クラスや異年齢児との触れ合う機会が持てるように様々な工夫、保育の形態に配慮している	1.6

VIII	評価項目	評価統計
1-①	地域開放(親子保育園体験日・行事など)について職員間で共通理解の上で取り組んでいる	/
1-②	自演の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる	2
1-③	親しみやすい雰囲気を中心掛け、利用者に積極的に声をかけている	1.4
2-①	子どもが自分で遊びを考え出して主体性を発揮できる環境をつくり、子どもの支援ができる場を作っている	1.7
2-②	講座等で子育て学習の機会を設けて、親の支援ができる場を作っている	/
2-③	利用者同士(親同士、子ども同士)の関係が作りやすいよう配慮して、遊びや場の設定をしている	2.3
3-①	どの利用者にも公平に接している	1.6
3-②	利用者同士(親同士、子ども同士)の仲間作りを促し、場の全体に気を配っている	2.1
3-③	価値観、経験、力量などの利用者の多様性を受け入れ、それに合わせた対応している	1.8
3-④	利用者が良好な親子関係を築くことができるように、肯定的に働きかけている	2
4-①	課題がある親子に気付き、利用者の気軽な相談を大切に受け止めている	1.9
4-②	専門的な言葉を極力使わずに、日常的な言葉でわかりやすく伝えている	1.6
4-③	保護者などから問い合わせがあった場合に、自園または地域の子育て資源に関する情報について説明できる	2.6
4-④	対応が難しいケースの場合に連携すべき専門機関を知っている	2.8
5-①	魅力的な活動、居心地の良い場を維持するために、現状の課題や今後の運営について話し合っている	1.9
5-②	地域の子育て支援ニーズを把握し、地域に自園の子育て支援事業を紹介している	2.6
5-③	口座準備等の業務が円滑に進むよう、協力合っている	/